

## これまでの学習を活用しながら考える力を高めた 2年「かけ算」の授業

1月に行われた2年1組河村教諭の授業を紹介します。橋戸小の教員だけでなく、他校の教員も多数参観する中での授業でした。

この日のねらいは「6の段のかけざんの求め方を考える」ことです。

授業は、6個入りの商品を紹介することから始まりました。たまご、チーズ、チョコパイ、マンゴープリン。子どもたちの視線はくぎづけです。「どの品物で考えたい？」と河村教諭が問いかけると、子どもたちが選んだのは「マンゴープリン」！

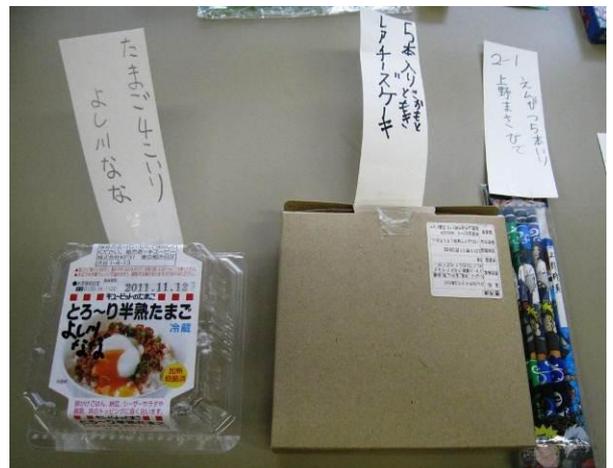
教室には他にも4こ入り、5本入りなど様々な商品が並べられていました。子どもたちが持ってきたものです。身の回りの品物を使うことで、算数がぐんと身近に感じられるのです。

6個入りのマンゴープリンが、1つだと $6 \times 1$ 。2つだと $6 \times 2$ 、3つだと $6 \times 3$ …。式はできますが、答えはどうやって求めればいいのでしょうか。

まずは自分の力で考えます。これまでに子どもたちは5の段までのかけ算を学習しています。その過程で、答えの求め方にはいくつかの方法があることがわかってきました。それらの方法を使えば、6の段の答えも見つけられそうです。

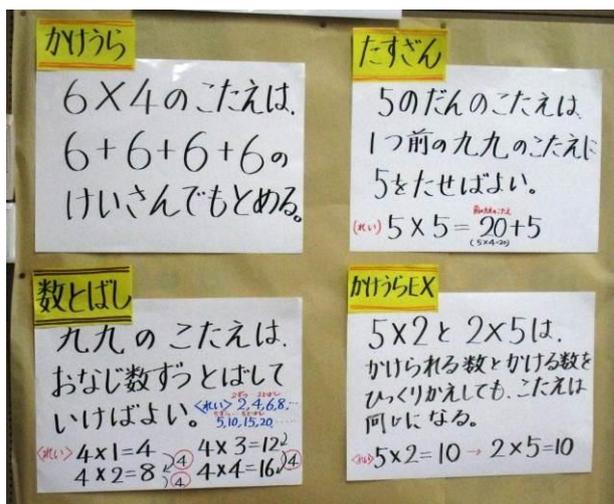
過去の学習内容を活用して考える習慣をつけることは、とても重要なことです。どんなに知識をもっている子でも、それを活用することがなければ宝の持ち腐れです。新しい問題に出会ったときに、すぐにあきらめてしまう子は、この習慣の付いていない子です。

橋戸小では、算数の研究を通してこの「活用力」を高めていきたいと考えています。

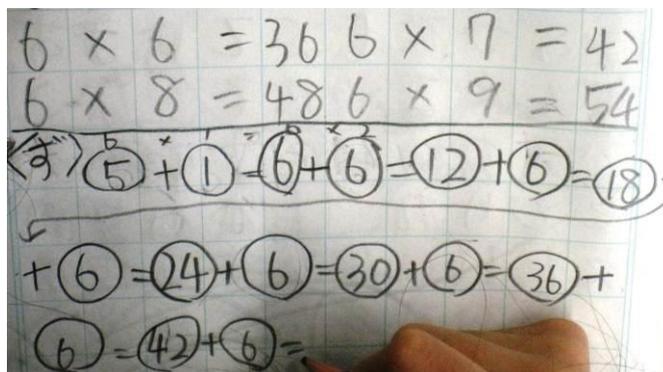


教室の掲示板上には、これまでに子どもが見つけたかけ算の答えの求め方が掲示されていました。それぞれの方法には「かけうら」「たずさん」「数とばし」などの名前が付けられています。ネーミングは子どもと相談しながら付けるそうです。ユニークな名前を付けることで、子どもたちの関心も高まります。子どもたちの意欲を高めるいい方法です。

子どもたちは、図を描いたり、6ずつ足していったりしながら、6の段の答えを見つけていきました。



とら	くずい
6 x 1 = 6	00000001
6 x 2 = 12	00000009/00000001
6 x 3 = 18	00000000/00000000/00000000
6 x 4 = 24	00000000/00000000/00000000/00000000
6 x 5 = 30	00000000/00000000/00000000/00000000/00000000
6 x 6 = 36	00000000/00000000/00000000/00000000/00000000/00000000



「ぼくはかけうらの方法で考えました。」

発表し合いながら、考え方を共有していきます。自分の力では考えられなかった子も、仲間の発表を聞くことで6の段の答えの求め方を理解することができました。

最後に、6の段の問題作りをしました。計算を解くことよりも、問題を作るの方がずっと大変です。けれども、どの子もすいすいと問題を作っていて感心しました。これまでのかけ算の学習で、何度も問題作りをしてきた成果が表れていました。

子どもが作った問題は、学習の最後に各自1冊の「かけ算絵本」にまとめます。世界に1つだけの宝物です。

子どもたちの思考力・表現力を高める工夫がいっぱいの楽しい授業でした。

